

県産小麦「びわほなみ」の商品開発と販路開拓

農業技術振興センター農業革新支援部

【普及活動のねらい・対象】

県では多収かつ外観品質、製粉・製めん性に優れる「びわほなみ」を奨励品種に採用し、生産拡大を進めています。令和3年に製粉会社から「びわほなみ」100%の小麦粉が発売されましたが、品種名を銘打った商品がないため、県民の目に触れる機会がなく、生産者の栽培意欲が高まりにくいという問題がありました。

そこで、昨年度は1、2、3次事業者が参加するプラットフォームを立ち上げ、滋賀県製麺工業協同組合を中心とする「中華麺開発チーム(以下開発チーム)」を組織し、商品開発を支援しました。今年度は商品完成と販路確保、生産者の意欲向上をねらいに活動しました。

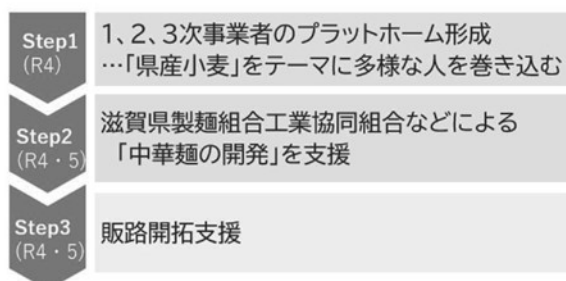
【普及活動の内容】

(1) 商品開発の支援

麺の品質改良やパッケージ作成等を支援した結果、冷し中華麺が完成しました。商品には「滋賀県産小麦びわほなみ 100%使用」と表示しました。また、ラーメン等4商品の開発を支援しました。

(2) 販路開拓の支援

6月の「近江冷し中華麺」の発売にあたり、記者発表や店頭販売など、開発チームのネットワークを生かしたコーディネートを中心に販路開拓を支援しました。



革新支援部がパイプ役として取組全体をコーディネート

図1 活動の流れ

【普及活動の成果】

これらの活動の結果、商品の販売が始まりました。冷し中華麺は季節商品のため、売上額は130万円でしたが、売り先は県内量販店など104店舗に達し、次年度への足掛かりができました。また、様々な機会をとらえて生産者へ情報発信を行い、生産意欲の向上を図りました。今後は、民間事業者や教育機関と連携した販路拡大のコーディネートを中心に活動を続け、「びわほなみ」の流通拡大を進めていきます。



写真1 「近江冷し中華麺」



写真2 記者発表

表1 商品数、提供店舗数、売上額

	R4	R5	R6
新商品数 (累計:件)	(1) 3	(2) 5	(3)
商品提供 店舗数	—	(38) 104	(76)
売上(万円)	—	(550) 130	(2,900)

()内の値は目標値

◎対象者の意見

県産小麦の冷し中華はプラットフォームのおかげで多様な販路が開拓でき、多くの県民に届けられました。今後も県産小麦の商品開発を進めます。(滋賀県製麺工業組合員)